

地元で働く選択肢

Vol.12



協和株式会社 篠山工場
小高 大知さん 19歳
担当部署：品質保証グループ
勤務年数：11カ月
出身：丹波市
卒業校：篠山産業高等学校

新型コロナウイルス禍以降、地方での就職や移住を検討している人が増え、地方回帰が注目されています。市内にはどんな企業が活躍しているのか、インタビューを通じて紹介します！
創造都市課 ☎552-5106

協和株式会社で働く幸せ

率直にとっても働きやすい職場環境だと思います。入社したばかりのころは分からないことが多く不安もありましたが、周りの皆さんがよく気にかけてくれて工場のことや仕事について優しく教えてもらっています。

話しやすく接しやすい方ばかりで、人間関係が良好で長く仕事を続けていけると思っています。

「グループ長に聞きました！」

こんな人材を求めています！

素直で明るければ、どの部署でも周りの人と上手く接し、やっていけると思っています。

頑張っている人を周りもサポートしてくれます。やる気とコツコツ頑張る行動力さえあれば周りにも受け入れられ、成長していける環境です。

新卒者・中途者関係なく、ぜひ見学に立ち寄ってください。



左：品質保証グループグループ長 橋本善博さん

協和株式会社 篠山工場

所在地：泉1284

TEL：556-3161

事業内容：

金型製作/プラスチック射出成形/二次加工・組み立て

高校2年生のときに学校に来ている求人票を見て、実際にどんな仕事をしている企業か知りたいと思い、企業見学に行き、働いている方の話を聞かせてもらったのがきっかけで入社しました。

見学へ行く前には、会社のパンフレットなどをしっかり読んで情報収集をしたり、両親に相談したりして気持ちを固めていきました。

自分は前向きな性格で、かつ慎重にコツコツ進めるタイプなので、就職を考えた際に製造業ではあるものの製造職ではなく「品質管理」などの職が向いていると自己分析ができていました。自己PR時に迷わず発言できた結果、現部署に就くことができたのでよかったです。

現在の仕事内容

篠山工場で製造した自動車部品やOA機器部品などのプラスチック製品が顧客要求品質基準・規格に問題がないかの検査や、検査結果記録をまとめる報告資料や集計資料作成などの事務作業が主な仕事です。

最近では、成形工程巡回検査も行っています。

周囲の皆さんにサポートしてもらい、徐々に1人でできる仕事も増えてきて成長を実感でき、仕事が楽しくなってきました。

小高さんのある1日

- 8:00 出社
- 8:20 ラジオ体操
- 8:30 清掃
- 9:00 製品サンプル回収など
- 10:00 部署の朝礼
- 11:00 製品サンプル検査など
- 12:00 昼食
- 12:50 完成品検査
- 14:00 資料作成など事務作業
- 17:15 退社

※午前・午後に各自それぞれのタイミングで休憩あり。



就職を考えている方へメッセージ

どんな仕事でも最初は誰でも分からないことが多く、スタートラインは一緒です。あまり難しく考えずに、自分に合っている仕事(職種)だと思って一歩踏み出したらいと思います。



夢へのかけはし

教育やスポーツ、文化・芸術などの分野で活躍する若者たちを紹介します。

全国パソコンテストで篠山東雲高校の長澤さんが特別賞

1月13日と14日の2日間にわたり、静岡県伊豆の国市で開かれた、全国の高校生がパンづくりの技術やアイデアを競う「第18回全国高校生パンコンテスト」。地産地消低配合部門で篠山東雲高等学校3年生の長澤颯希さんが特別賞を、地産地消高配合部門で2年生の栗野謙心さんが入賞を受賞しました。同校の受賞は2年連続で、長澤さんは昨年の入賞に続く受賞となりました。コンテストには5部門に182作品の応募があり、書類審査を経て、22作品が全国大会に進出しました。

長澤さんの作品は黒豆「イングリッシュマフィン」。天然酵母を発酵させた生地には黒豆きなこを練りこみ、焼き上げた後、表面に黒豆きな粉をまぶしました。

栗野さんの作品は「山黒きなこまぶしパン」。揚げパンが好きな栗野さんは、生地には山の芋を使い焼き上げた後、黒豆きなこをまぶしました。授賞には、長澤さんは「昨年のリベンジを果たそうと臨んだ大会で、賞を取れてすごいです」、栗野さんは「賞をとれてうれしい気持ちもありますが、来年はもっと上をめざして頑張りたい」と笑顔で話してくれました。

栗野謙心さん、長澤颯希さん(左から)



大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎506-2366



実践農学入門の成果発表会が開催されました

雲部地区で実施してきた令和5年度「実践農学入門」の成果発表会が開催されました。9つの班で活動してきた42人の学生たちは、1年間の実習を通して、農家から学んだことや農作業の経験から発見したことをもとに、地域課題を新しい視点で解決する提案を行いました。

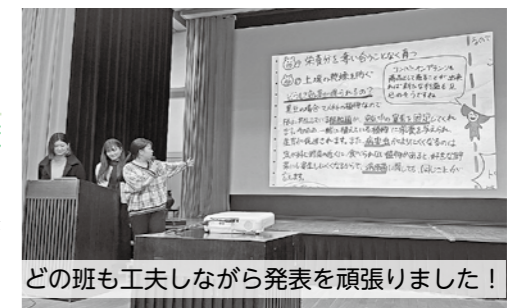
学生が作成したポスターと発表内容は、地域の方や市職員、神戸大教員が審査し、結果は以下のようになりました。

- ◆地域連携センター長賞 = 9班
→実習を通じてコンパニオンプランツ(※)を実験的にを行い、その効果や新たな課題を発表
- ◆市長賞 = 1班
→兵庫県内の中高生が農業に携わることができるよう、学校に部活を設置し、大学生がフォローする仕組みを提案

これらのアイデアは、令和6年度の「実践農学」の授業で実現化に向けて、実践的にプロジェクトとして活動を進めていく予定です。今後も学生たちの活躍に、こうご期待です。



班ごとに練習をして本番に臨みました！



どの班も工夫しながら発表を頑張りました！

※互いに助け合って育つ、相性のよい植物同士のこと。